

## 県との共同開発により杉材のフローリング特殊加工に成功

株式会社ホーテック 奈良県吉野郡大淀町

吉野杉・吉野桧などの内装部材を手がける株式会社ホーテック（代表取締役 堀内嘉久氏）は、杉材の表面に傷がつきにくい加工を施す技術を県森林技術センター（高取町）と共同で開発した。

杉材は表面に触れると暖かく感じるように、構造上空気の層が多く断熱効果が高い。また、見た目にも木目が美しいという特徴がある。反面、柔らかく表面に傷がつきやすいことから、これまでフローリングには不向きとされてきた。

同社は杉が持つ特性を活かしながら、弱点を解消できないかと考え、平成22年度「奈良県緑の産業再生プロジェクト事業」に応募。県の助成を受けながら技術開発を進め、特殊加工に成功した。同社が開発した「ホーテック ハードフローリング®」（特許出願中）は、熱ロールプレス機で杉材の表層部分を1ミリ程度圧縮し、特殊樹脂で覆うという加工方法。表面だけを硬くすることから、杉の持つ良さを損なうことなくフローリング材として活用することが可能となった。

加工が施された杉材は、未処理のものと比較してへこみ傷は7分の1、ひっかき傷は13分の1、摩耗も5分の1で、床材として十分な硬度がある。表面が滑りにくいこともあり、ペットや土足での歩行にも全く支障がない。さらに、床材に多いナラ材よりもコストを抑えることができる。



「ホーテック ハードフローリング®」（表面を爪でひっかいても傷がつかない）

奈良県には、杉や桧の産地と品質を認証する「奈良県地域材認証」制度がある。これは、「奈良県地域材認証センター」が、県内で伐採したこと（産地認証）および乾燥度合（含水率）や強度（ヤング係数）が基準に達していること（品質認証）を認証する制度。同社で扱っている吉野杉の住宅部材はすべて地域認証材であり、産地や品質が明記された「安心できる」木材である。もちろんハードフローリングを施すことも可能だ。

「ホーテック ハードフローリング®」は、これまで、奈良佐保短期大学（奈良市）のレストラン「鹿野園」や2年前の台風で浸水した天川村の個人住宅の修繕、奈良県立橿原公苑ジョギング&サイクリングステーション、県外では愛媛大学附属中学校の講堂などで採用されるなど、店舗、住宅、公共施設と、その用途は広がりをみせている。同社の堀内嘉久社長は「川下の需要を拡大させて山にお金を還元することが目標。この技術で県産材を流通させて、林業活性化に貢献したい」と吉野地域の発展にける思いは熱い。（丸尾尚史）



「ホーテック ハードフローリング®」を施した奈良佐保短期大学のレストラン



### 株式会社ホーテック

〒638-0812 奈良県吉野郡大淀町  
松垣本 1078-1

TEL: 0747-54-3111  
FAX: 0747-54-3110  
URL: <http://www.hotech.jp>